

第六学年〇組 国語科学習指導案

指導者 安永 亮

単元 筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう「時計の時間と心の時間」(光村図書)

指導観

- 本学級の子供たちは、これまでに、双括型や尾括型の文章構成、複数の事実や意見を基に筆者の主張が筋道立てられて述べられていることを読み取ることができるようになってきている。そこで、それをもとに自分の考えをつくる力が高まってくるこの期に本単元を取り上げる。そして、筆者の取り上げている話題や文章構成、表現の工夫を捉え、主張との整合性や論の妥当性について考えを広げることができるようにする。このことは、言葉に関する知識及び技能を基に、筋道立てて考えながら、自分の考えをつくる子供を育てる上からも意義深い。
- 本単元に関しては、第5学年「想像力のスイッチを入れよう」の学習で、筆者の考えと図や事例を関係付けながら読むことを学習してきた。本単元では、これらの上に立って、主張と事例を関係付け、筆者の事例の挙げ方や表現の工夫に込められた意図を捉えることができるようにする。このことは、2学期「『鳥獣戯画』を読む」の学習で論の展開や表現の工夫の効果捉える学習へと発展していく。
- 本単元の指導にあたっては、筆者の主張に関係する言葉の定義付けを行う段落のある双括型の文章構成や、実験や具体例を用いた論の進め方を捉え、自分の考えを発表できるようにする。特に本時指導にあたっては、まず、導入段階では、3～6段落と7段落の内容を比較し、なぜ7段落で「時計の時間」について述べているのかを明らかにするというめあてをもつことができるようにする。次に、展開段階では、7段落で「時計の時間」について述べている理由を、叙述を基にまとめたり、友達の考えと関係付けたりしながら整理し、2つの時間が私たちの生活には必要であることを明らかにすることで、筆者の意図を見出すことができるようにする。最後に、終末段階では、本時で目を付けた言葉や考え方、捉えた内容について振り返り、次時の見通しをもつことができるようにする。

目標

- (1) 「すると」「このことから」等の接続語や指示語は、前後の文を結びつけて原因と結果の関係を表す働きがあることや、双括型の文章構成は、序論と結論に筆者の主張が述べられていることを理解することができるようにする。
- (2) 事実と意見を表す文末表現に着目して、「時間」を付き合うちえが必要であるという主張に説得力を高めるために、事例の内容や「心の時間」を主とした本論の述べ方の意図について考えたり、判断したりできるようにする。
- (3) 私たちは「時計の時間」と「心の時間」の二つの時間と共に生活していることについて関心を持ち、意欲的に捉えた文章構成や論説文における筆者の表現の工夫について、自分の考えをまとめ、発表しようとする態度を育てる。

計画(6時間)

- 1 教材文を読んで感想を話し合い、筆者の主張の内容と表現についての学習課題を捉えさせる。————— 1
- 2 「時計の時間」と「心の時間」についての内容や表現の工夫について段落構成図や表に整理し、要旨や筆者の論の進め方を捉えさせる。————— 4
 - (1)文章構成について ----- ① (2)4つの事例の内容について ----- ①
 - (3)事例の述べ方について ----- ① (4)第7段落目の効果について ----- ①本時
- 3 筆者の主張の内容と表現について自分の考えをまとめ、友達と意見や感想を伝え合い、時計の時間と心の時間との付き合い方や筆者の意図に対する自分の考えを広げさせる。————— 1

本時 令和2年5月〇日(〇曜日) 3校時 6年〇組教室において

- 主眼 1 7段落で「時計の時間」について述べることで、時計と心の両方の時間が必要であるという筆者の主張につなげ、「心の時間」を大切に生活するという「時間」と付き合うちえについて考えることができるようにする。
- 2 「心の時間」と「時計の時間」に関する事実と意見について色分けをして、文章構成図をもとに自他の考えを関係付けたり、叙述と考えを矢印でつなげたりしながら筆者の主張について話し合うことができるようにする。

準備 流れ図、叙述パネル、学習プリント

過程

| 段階 | 学習活動と予想される子供の反応 | 教師の具体的な支援 |
|----|---|--|
| 導入 | <p>1 事例が述べられている3～6段落と7段落のまとめの内容を比較して、筆者の意図を明らかにするめあてについて話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">【本論3～6段落】</p> <p style="text-align: center;">「心の時間」についての 4つの事例</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">【本論7段落】</p> <p style="text-align: center;">「心の時間」と「時計の時間」 についてのまとめ</p> </div> </div> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">4つの事例は「心の時間」のみ述べられているのに、第7段落目に「時計の時間」について述べているのだろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>なぜ、筆者は7段落で「時計の時間」について取り上げたのか考えよう。</p> </div> | <p>○本時学習のめあてを見出させるために、第2時で作成した文章構成図の本論の部分から、3～6段落と7段落を左右に比較できるように板書に提示する。</p> |
| 展開 | <p>2 時計と心の時間に関する筆者の考えが分かる叙述を書き出して、言葉を根拠に話し合い、筆者の意図を明らかにする。</p> <p>(1) 7段落で「時計の時間」について述べる必要性が分かる叙述と、その理由について自分の考えをつくる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>そうした「心の時間」のちがいをこえて、私たちが社会に関わることを可能にし、社会を成り立たせているのが、「時計の時間」なのです。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの社会を成り立たせているものは、「時計の時間」で、それが大切だからかな。 ・やっぱり、「時計の時間」も大切だからかな。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>そんな私たちに必要なのは、「心の時間」を頭に入れて「時計の時間」を道具として使うという「時間」と付き合うちえなのです。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・最後の主張に書いてあるから、やっぱり2つの時間が大切かな。 ・8段落は、どちらの時間も生活には必要と書いてあるよ。 </div> </div> <p>(2) 7段落の「時計の時間」について、「時間」と付き合うちえについて話し合い、8段落との関係を明らかにする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【事例から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間帯と体の動きの関係。 ・身の回りの刺激のとの関係。 ・一人一人の感覚の違い。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【7段落から】</p> <p>「心の時間」の感覚のちがいがあわせて考えれば、いつも正確に、「時計の時間」……分かります。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【8段落から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな事がら～立てられるでしょう。 ・また、人それぞれに～かもしれません。 </div> </div> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">8段落にある「時間」と付き合うちえは、「心の時間」と「時計の時間」のそれぞれのよさを、時と場合に応じながら、バランスを考えることが大切ということだな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「心の時間」を頭に入れたり、目を向けたりするとはどういうことだろうか。</p> </div> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">2つの時間が大切であるという主張につなげ、ちえについてくわしく説明するためである。</p> | <p>○3～6段落の事例の内容や7、8段落の主張に目をつけることができるように、一人一人に文章構成図やこれまで目をつけてきた言葉や視点を提示する。</p> <p>○8段落で述べられている「時計の時間」と「心の時間」の関係を捉えさせるために、「二つの時間の何を考えていけばいいのでしょうか。」と発問をする。</p> |
| 終末 | <p>3 本時学習を振り返り、次時の見通しを立てる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・本論と結論に関する意図について(本時) ・全体の内容と表現に関する自分の考え(次時) </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張に説得力を持たせるための意図。 ・次は、納得したことや共感したことを書く。 </div> </div> | <p>○本時学習をまとめ、次時への見通しをもたせるために、本時で目を付けた言葉や思考方法、筆者の主張とのつながりを板書上にキーワードとして示す。</p> |

本単元の構成

| 配時 | 学習活動と予想される子供の反応 | 教師の具体的な支援 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|-------------------------------------|-----------------|--------------|------------------------------------|---------------------------------|--|------------------------------------|-------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|--------|-----|-----|-----|-----|-------------|------------|-------|--------|----------------|------------------|-----------------|--------------|------------------------------------|-----------------------|------------|------------------|---------------|------------------|-----------------|--------------|------------------------------------|----------------|
| 45 | <p>1 既習の教材文を振り返り，初発の感想の交流を通して，内容面と表現面の学習課題を見出すめあてについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【既習の学習】 「笑うから楽しい」 中村 真</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【本単元の学習】 「時計の時間と心の時間」 一川 誠</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2つの時間についての筆者の主張や意図を読み取り，自分の考えを発表しよう。</p> </div> | <p>○既習の教材文の構成や表現を振り返ることができるように，本文と文章構成図を提示する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 45 | <p>2 「時計の時間」と「心の時間」についての内容や表現の工夫について段落構成図や表に整理し，筆者の主張や意図を捉える。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 45 | <p>○接続語や指示語，文末表現に着目して段落分けをし，文章の全体構成を捉える。</p> | <p>○全体の構成を操作しながら話し合わせるために，段落ごとの内容を簡潔に記したカードを提示する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">結論</th> <th colspan="6">本論</th> <th style="width: 10%;">序論</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>主張</td> <td>時間のまとめ</td> <td>事例④</td> <td>事例③</td> <td>事例②</td> <td>事例①</td> <td>2つの時間の定義・特性</td> <td>主張 話題提示</td> </tr> <tr> <td>ける大切さ</td> <td>性とその課題</td> <td>の「心の時間」への感覚の違い</td> <td>身の回りの環境による進み方の違い</td> <td>一日の時間帯による進み方の違い</td> <td>感じ方による進み方の違い</td> <td>「時計の示すのが「時計の時間」 体感している時間が「心の時間」</td> <td>主張 「心の時間」に目をむける重要性</td> </tr> <tr> <td>「心の時間」に目を向</td> <td>「時計の時間」の必要性とその課題</td> <td>「心の時間」への感覚の違い</td> <td>身の回りの環境による進み方の違い</td> <td>一日の時間帯による進み方の違い</td> <td>感じ方による進み方の違い</td> <td>「時計の示すのが「時計の時間」 体感している時間が「心の時間」</td> <td>生活の中の「心の時間」の存在</td> </tr> </tbody> </table> | | | 結論 | 本論 | | | | | | 序論 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 主張 | 時間のまとめ | 事例④ | 事例③ | 事例② | 事例① | 2つの時間の定義・特性 | 主張 話題提示 | ける大切さ | 性とその課題 | の「心の時間」への感覚の違い | 身の回りの環境による進み方の違い | 一日の時間帯による進み方の違い | 感じ方による進み方の違い | 「時計の示すのが「時計の時間」 体感している時間が「心の時間」 | 主張 「心の時間」に目をむける重要性 | 「心の時間」に目を向 | 「時計の時間」の必要性とその課題 | 「心の時間」への感覚の違い | 身の回りの環境による進み方の違い | 一日の時間帯による進み方の違い | 感じ方による進み方の違い | 「時計の示すのが「時計の時間」 体感している時間が「心の時間」 | 生活の中の「心の時間」の存在 |
| 結論 | 本論 | | | | | | 序論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主張 | 時間のまとめ | 事例④ | 事例③ | 事例② | 事例① | 2つの時間の定義・特性 | 主張 話題提示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ける大切さ | 性とその課題 | の「心の時間」への感覚の違い | 身の回りの環境による進み方の違い | 一日の時間帯による進み方の違い | 感じ方による進み方の違い | 「時計の示すのが「時計の時間」 体感している時間が「心の時間」 | 主張 「心の時間」に目をむける重要性 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 「心の時間」に目を向 | 「時計の時間」の必要性とその課題 | 「心の時間」への感覚の違い | 身の回りの環境による進み方の違い | 一日の時間帯による進み方の違い | 感じ方による進み方の違い | 「時計の示すのが「時計の時間」 体感している時間が「心の時間」 | 生活の中の「心の時間」の存在 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>文章構成は，双括型になっていて，本論の始めに言葉の定義を行った後に，事例4つ挙げて，まとめ，主張の構成になっている。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 45 | <p>○4つの事例の内容を比較し，どのような具体例がとりあげられているのか明らかにする。</p> | <p>○事例①，②，③と事例④の述べられている内容が違うことを捉えさせるために，共通して使われている語句や中心文を板書上で構造的に整理する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">事例④ 感覚</th> <th style="width: 25%;">事例③ 環境</th> <th style="width: 25%;">事例② 時間帯</th> <th style="width: 25%;">事例① 感じ方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とう人 向きよ き合っ 合うて 時間違</td> <td>の時刺 関間の激 係のの回 の感多 じさ 方と</td> <td>良と一 さ体の のの 関動 係き の帯</td> <td>く時 る間 感とを じる時 効果間 を長</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>事例①～③までは，「心の時間」の進み方の特性を述べて，事例④では，「心の時間」は一人一人感覚が違うことを述べている。</p> </div> | | | 事例④ 感覚 | 事例③ 環境 | 事例② 時間帯 | 事例① 感じ方 | とう人 向きよ き合っ 合うて 時間違 | の時刺 関間の激 係のの回 の感多 じさ 方と | 良と一 さ体の のの 関動 係き の帯 | く時 る間 感とを じる時 効果間 を長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事例④ 感覚 | 事例③ 環境 | 事例② 時間帯 | 事例① 感じ方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| とう人 向きよ き合っ 合うて 時間違 | の時刺 関間の激 係のの回 の感多 じさ 方と | 良と一 さ体の のの 関動 係き の帯 | く時 る間 感とを じる時 効果間 を長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>4つの事例は，「心の時間」の進み方が変わる原因についてと，一人一人違う感覚で向き合っていることについてに分かれている。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>45</p> | <p>○4つの事例に説得力をもたせるための工夫について話し合い、事例の述べ方について明らかにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>「心の時間」に目を向けることが、とても重要であると考えています。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>筆者は自分が考える重要な理由を説明するために、事例を「心の時間」だけにしたのかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>「心の時間」を頭に入れて</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>頭に入れるとは、考えるとか知るとのことだとすると、「何を」を詳しくしているのかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;"> <p>事例④ 感覚</p> <p>結果 ← 実験する</p> <p>体験的根拠 他人との関係</p> </td> <td style="width: 25%;"> <p>事例③ 環境</p> <p>考察 ← 結果 ← 実験</p> <p>科学的根拠</p> </td> <td style="width: 25%;"> <p>事例② 時間帯</p> <p>考察 ← 結果 ← 実験</p> </td> <td style="width: 25%;"> <p>事例① 感じ方</p> <p>結果 ← 具体例</p> <p>経験的根拠 個人に関して</p> </td> </tr> </table> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>「心の時間」を理解する大切さを読者に伝えるために、様々な根拠を事例として挙げて、7段落の主張につなげている。</p> </div> | <p>事例④ 感覚</p> <p>結果 ← 実験する</p> <p>体験的根拠 他人との関係</p> | <p>事例③ 環境</p> <p>考察 ← 結果 ← 実験</p> <p>科学的根拠</p> | <p>事例② 時間帯</p> <p>考察 ← 結果 ← 実験</p> | <p>事例① 感じ方</p> <p>結果 ← 具体例</p> <p>経験的根拠 個人に関して</p> | <p>○4つの事例の述べられ方を整理させるために、共通している言葉を明らかにして、根拠となる手立てを板書上で可視化して整理する。</p> |
| <p>事例④ 感覚</p> <p>結果 ← 実験する</p> <p>体験的根拠 他人との関係</p> | <p>事例③ 環境</p> <p>考察 ← 結果 ← 実験</p> <p>科学的根拠</p> | <p>事例② 時間帯</p> <p>考察 ← 結果 ← 実験</p> | <p>事例① 感じ方</p> <p>結果 ← 具体例</p> <p>経験的根拠 個人に関して</p> | | | |
| <p>45 本時</p> | <p>○7段落の内容について話し合い、「時計の時間」と「心の時間」の関係について明らかにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>そうした「心の時間」のちがいをこえて、私たちが社会に関わることを可能にし、社会を成り立たせているのが、「時計の時間」なのです。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの社会を成り立たせているものは、「時計の時間」で、それが大切だからかな。 ・やっぱり、「時計の時間」も大切だからかな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>そんな私たちに必要なのは、「心の時間」を頭に入れて「時計の時間」を道具として使うという「時間」と付き合うちえなのです。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・最後の主張に書いてあるから、やっぱり2つの時間が大切なのかな。 ・8段落は、どちらの時間も生活には必要と書いてあるよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>「心の時間」を頭に入れたり、目を向けたりするとはどういうことだろうか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>2つの時間が大切であるという主張につなげ、ちえについてくわしく説明するためである。</p> </div> | <p>○8段落で述べられている「時計の時間」と「心の時間」の関係を捉えさせるために、「二つの時間の何を考えていけばいいのでしょうか。」と発問をする。</p> | | | | |
| <p>45</p> | <p>3 筆者の主張について自分の考えをまとめ、友達と意見や感想を伝え合い、自分の考えを広げる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>私は筆者の主張に賛成である。「心の時間」に目を向けることで、普段の生活に見通しがもてたり、相手を理解したりすることができ。一人一人が「心の時間」の良さを理解して、お互いに気遣いながら生活していくことでより社会になると考える。</p> <p>また、主張の根拠を述べる事例については、具体例や実験、体験を取り入れることで、様々な根拠を基に説得力のある展開の仕方となっているので分かりやすかった</p> </div> | <p>○主張に対する自分の考えを書かせるために、「筆者の主張に対する考え、説明の分かりやすい工夫、疑問点」の3観点を提示する。</p> | | | | |